

毎文の春爛漫 新講座が続々

自分史、ジャーナリスト、演劇など

毎日文化センター広島（毎文）では、春の受講生を募集しています。「教養」科目を増設したほか、毎文ならではの豊富な常設講座、入会金無料の特別講座が皆様のご来館をお待ちしています。館長のイチオシ3講座を紹介いたします。

■作家が伝授 自分史・エッセーのコツ
第2・4水曜 ①15時半〜17時 ②18時半〜20時
有須和也（作家）／時 どちらかを選択／

4月20日（日） 「毎文の遠足」 参加者募集中

食とロマン紀行！
毎文では4月20日（日）に「出雲パワー スポット」を巡る遠足を実施します。広島駅新幹線口発着の日帰り貸切バスツアー。昼食は大正・昭和の両天皇陛下に献上した「羽根屋」。名物のそばに舌鼓を打ちます。代金は税込込み1万円（昼食付）

受講料3カ月1万2960円（テキスト代別）
誰もが個人の歴史を持っていきます。自分の生きてきた軌跡を文章にしたい。もっと気ままにエッセーを書きたい。作家がその極意を伝授します。
■超実践 ジャーナリスト養成講座

鈴江康二（毎日文化センター広島館長）ほか／第1・3土曜13時〜14時半／受講料3カ月1万2960円（テキスト代別）
マスコミへの就職を目指す大学生はもちろん、メディア全般に興味のある方に、現役の業界人が懇切指導いたします。

■まいぶん演劇塾
五十嵐美佐子（劇団テアトル広島）／第2・4火曜15時半〜17時半
受講料3カ月1万2960円（テキスト代別）
一度でいいから舞台に……。そんな初心者の方々に演劇のイロハを伝授します。座学ではなく、セリフを読み、演技の基礎を学びます。

アンティーク家具に草花 四季の料理を堪能 「英斗」

料理を通じて四季が感じられる本格和食ダイニング「英斗（えいと）」は、じぞう通りに12年春にオープンした。英国調のシャンデリアやアンティーク家具に囲まれた店内で、ちよつぱり上質な時間をお過ごしください。

「粋なお店」 じぞう通り

女将の八田菜衣子（はった・まいこ）さんは、「食を通じて日本の良さが感じられる、そんなお店にしたい。冬至や立春など、古来から伝わる暦という素晴らしい文化を大切に、

メモ

「英斗（えいと）」
広島市中区富士見町4の17
の1F▽電話082・5446・908
88▽営業時間18時〜23時半（ラストオーダー23時）
火曜・祝日定休。



店内外に飾った草花「ただけたら」と話しでも季節を感じていっている。【上原友紀】

館長室から

昨夏に第31号を発行してから年を越し、ようやく今号をお届けします。この間、新米館長ゆえに右往左往することばかりでしたが、講師や受講生の皆さんに支えられ、「毎文の夏@基町クレド」・「年末チャリティー」などの各種イベントや、秋春の受講生募集の企画立案を乗り切ることが出来ました。この場を借りて御礼申し上げます▽今号ではGZO受講生3人が記事を執筆しています。それぞれ関心や個性も違いますが、あふれる思いを字に託したい意欲に満ちあふれています。次は夏の発行を目指しますが、どんな原稿が出てくるか、今から楽しみにしております。（す）



あなたらしさを咲かせませんか？
毎日文化センター広島 カルチャースクール